

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所 s u m i r e (児童発達)			
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 13日 ~ 令和 8年 2月 6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 13日 ~ 令和 8年 1月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動エリアが構造化されていて、こどもにわかりやすい空間になっている。個別のスケジュールで見とおしを伝えている。	活動がルーティン化しないように変化を取り入れる。個別と小集団の活動を目的をもって取り組んでいる。	スタッフの資質の向上を図るために、研修を受講する機会や事業所内研修の機会を確保する。
2	アセスメントから始めてスマールステップで成功体験につながる支援をし、自立を目的としている。	支援計画の項目ごとにアセスメントし、自立してできることは見守り、できないことは支援し、もうすこいでできそうなことを課題にして取り組みます。達成したら徐々にフェードアウトしていき自立に繋げます。	達成項目を家庭や地域等のさまざまな場面に般化していく。
3	こども園関係機関と連携をとりニーズや支援内容の情報共有と相互理解を図っている。	保護者、こども園、関係機関と連携して支援を行う。	地域の児童発達支援センター等の研修会等に積極的に参加する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場がない	保護者同士で話す機会があまりない。	保護者会の開催を実施する。
2	事業所の活動内容や取り組みが保護者に伝わっていないことがある。	連絡帳やラインで個別のやりとり、S N Sを活用して支援内容を発信しているが、まだ伝わらないことがある。	さまざまな方法で事業所の情報を発信していく。
3			